

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	○地域密着型サービスとしての理念  地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	(理念) 1、その人らしさを大切にします。 2、安心と喜び、優しさ、ぬくもりを大切にします。 3、地域、家族の結びつきを大切にします。以上の理念を簡単明瞭に自分たちで作成し、誇りを持ち理念にそって取り組んでいけている。	
2	○理念の共有と日々の取り組み  管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	3つの理念を各々が自覚し向き合い業務についている。ミーティング時には全員で理念の唱和を行い再確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透  事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	よく解るところに理念を掲げ初めての家族の方には説明し家族の方々に理解していただいている。又自治会集会場に出向きグループホームの理念、活動に付いて地域の皆さんに説明、理解していただけるようにする等積極的に働きかけている。毎月発行しているお便りにて家族、地域の方への浸透は出来ている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	○隣近所とのつきあい  管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	ご近所とのつきあいは年々広がりつつある。ホームへの行事への誘い、又逆に地域へ招かれる等交流が多い。こんにやくいもをいただきその作り方の手ほどきを受けたり、藍染を利用者、家族、地域の方々と一緒に行うなど年々新しい取り組みが増えてきている。又 地域の方々に顔を覚えていただき気軽に挨拶が出来ている。	
5	○地域とのつきあい  事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内のイベント等を通し地域の方々との交流は多に深まっている	○ 自治会の方のご理解により準自治会会員に加入させて頂く事となり、今後より一層地域の方々との交流を深めてゆきたいと思っております。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p> <p>地域の高齢者の暮らしに役立っているかわ解らないが 地域の高齢者との交流を多く持つようにしている。</p>		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p> <p>自己評価は全員で取り組み、外部評価を実施する意味を理解共有し、改善に当たっては全員で検討しよい改善につなげている。</p>		
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p> <p>とても良い機会であり、サービスの実態、評価への取り組み等を話し合い、マンネリ化に終らず皆様からの意見を吸収しサービスの向上につなげている。いつも色々な意見をいただき地域密着の輪が広がっている。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p> <p>町内の地域ケア会議にケアマネが出席し情報交換等を行いそれがサービス向上につながっている。又町担当者とも気軽に意見交換を行なえるように常に交流を持つ努力をしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p> <p>今までに必用とされる利用者様がなかった為 はっきりと制度についての知識を習得していないが、 町村のパンフレット等により 少しは理解している</p>	○	<p>今後は必要性が出てくる為、研修や市町村の情報等から制度に付いて勉強し、すぐ対応できるようにしてゆきたいと思います。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p> <p>虐待防止については研修会、勉強会等で学ぶ機会が多く皆が知識を深めている。又 日々の生活の中で少しでも疑問に思う事はその都度話し合い防止に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得  契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご本人、家族が安心していただき、信頼につながるような十分な説明を行ない、又見学、体験等をふまえ納得して入居していただけるように努めている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映  利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	心地よく暮らしていただけるようにいつも利用者様の意見は大切にしている。何気ない一言を大切にし思いを汲み取るように努めている。	
14	○家族等への報告  事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行の「はぶりの宿便り」に載せている裏面を利用し、その月の暮らしぶり及び金銭管理を報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映  家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様との信頼関係は出来ているように思うが、面会時や家族会等で家族の方々に意見を聞き運営面にプラスになるように努めている。又苦情申し立て機関のパンフレットを家族の方々に配布説明している。	
16	○運営に関する職員意見の反映  運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングで話し合う方針である。運営者、管理者は自分の意見を押しつけることなく第一に職員一人ひとりの意見を大切に良い職場作りに努めている。それが利用者様への良い介護へとつながっている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整  利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	フリーの勤務者、パート勤務者により勤務の調整が出来ている。融通できる話し合いが出来ている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮  運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員のチームワークの良さが利用者様への安心感であることを上司が理解し、離職についてはやむを得ないものの、極力異動はないように要望を聞き入れてもらっている。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19 ○職員を育てる取り組み  運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人組織内の教育委員会の開催する勉強会が盛んに行なわれ積極的に参加をしている。又 外部の研修会は全員がその段階に応じて参加している。自分が参加したい研修は必ず参加できるようにしており、各々がレベル向上に努めている。		
20 ○同業者との交流を通じた向上  運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームへの訪問はなかなか出来ないが、地域ケア会議、グループホーム協議会の会合に参加し交流を深めている。		
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み  運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	上下差をなくし仲間意識の感覚で接するようにし、何でも気楽に話が出来体制を作り上げるよう努力している。		
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み  運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	それぞれのよい所を生かしている。持ち味を生かしながら皆が協力しあっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご本人が納得の上で入居していただくためには、十分な聞く機会を持ち、安心して過ごして頂けるようホーム作りに努力している。急な相談、見学等にも誰でも対応できるようにしている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族様が不安を取り除くように時間をかけて話し合い現場の雰囲気を見てもらいながら受け止めるようにしている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談に応じて適切な対応が出来るよう、常に支援の仕方、どのようなサービスがあるか等情報を得るようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族、職員が一体となって支えていけるものである為いきなりの入所は避けている。日中の様子、体験入所も利用されるような形を取り徐々に馴染んでいただけるように工夫している。	
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	共に暮らすという意識の中で御互いがささえあって暮らしている。一緒に過ごす時間を大切に、人生の先輩として教わる事も多くいつも楽しい会話で盛り上がっている。よく食べ、よく笑い、健康を保っている。又プライドを傷つけないように気配り、支援している。	

岐阜県 グループホーム明星

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族、職員間の信頼関係が出来ている。利用者様、ご家族、職員がいつも笑顔で心安く会話が出来ているのは努力の積み重ねだと実感している。外出時などご家族が積極的に参加して下さり、楽しみを皆で分かち合える事が出来ている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援  これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	利用者様の何気ない喜びの言葉などをご家族にお話ししたり、日々の暮らしぶりなどをご家族にお話ししたりと家族関係の結びつきを常に大切にしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の進行により理解が困難になってきたり等問題点が多くなってきても出来るだけ馴染みの関係を絶やさないように努力している。(馴染みの美容院へ出かける、同窓会へ出かける、お墓参りに出かける等)		
31	○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	話が理解できなく利用者様同士で混乱が見られる時などは職員がさり気なく仲裁に入りそれがいつしか笑いにつながるようし、孤立しないように支援している。認知症であっても人への思いやり等大切に利用者様同士が良い関係を築けるように常に努力している。		
32	○関係を断ち切らない取り組み  サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所者の方とは長年生活を共にした仲である為時々様子伺いの電話を入れたり、ご家族の了解のもと面会に行く等関係をすぐにたたないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	暮らしを共にする中で常に思い、希望を受け止めるようにしている。何気なく言われた言葉を大切にしより良い暮らしが出来るようにアドバイスしている。	○	認知症が進行している利用者様の思いはなかなか把握しづらいが日々の生活の中での観察により思いを少しでも理解できるように努力してゆきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴、馴染みの暮らし方等ご本人やご家族より聞き取り記録し又生活を共にする中で観察し少しずつ情報を得それを支援につなげている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりのその日の過ごし方を把握することによって体調の変化に気付き急変時の敏速な対応が出来ている。又その日の心身状態によってその状態に合わせて支援の仕方を変えるようにしている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族、必要な関係者（医師、看護師、栄養士等）と意見を出し合い、それを介護計画書に反映している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ケアプラン会議を行ない多くの意見を出し合い、定期的な見直し又急変時にはそれに適した見直しを行なっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録の記入は勤務者の中で分担しながら必ず行なっている。日常的に気づきや言動を詳しく個別に記入し計画作成や見直しにつなげている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとして、介護支援専門員として、又長い経験を積んだ介護職員として情報を収集し支援に役立てるように日々努力している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ボランティア、清掃、慰問、外出同行、消防署、避難訓練、救命処置、心肺蘇生、教育機関、学校行事に招待、文化祭、里山祭り等あらゆる機関との協力体制が出来ている。		
41	○他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	特に地域包括支援センターとの係わり合いが多く、訪問電話などで頻繁に情報交換している。又 推進会議や地域ケア会議において情報交換、事例を持って相談など行いそれがサービス向上に結びついている。又居宅の介護支援専門員の方とも色々情報交換を行なっている。		
42	○地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	常に地域包括支援センターと係わり合いを持ち、相談することにより新しい資源の情報などを得、サービス向上に努めている。		



	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医を大切にしている。大変親切に診察していただき情報交換することにより利用者様の健康が維持できている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	ご家族とは定期的に受診できるように支援している。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	併設の老健施設の看護師長、診療所の医師、看護師による健康管理、医療活用の支援をしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	管理者、主任が主に入院先を訪問し情報把握に努めている。又長期入院の為やむなく退所となった場合は、退院後の受入先の確保に努め、ご家族利用者が安心して療養できるようにしている。入院の場合原則2週間部屋を確保しているが、相談に応じ退院後の行き場が無い利用者様などは最大1ヶ月部屋を空け退院をを待つなど利用者様中心に考えて運営している。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	まだ文書に残しはっきりとした方針が出来ていないが90過ぎの高齢者が多く終末期に付いて方針を決めたいと討議している。	○	グループホームでの終末期のあり方、ホームでの看取りに付いて職員間での話し合い、学習が必要。高齢化してゆく中で必要な課題だと思っています。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期ケアのはっきりとした取り決めが出来ていない。「グループホームで最後まで」と希望される利用者様、ご家族が多い事から「看取り」については今後の課題である	○	関係者間で取決め方針を検討する予定である。職員全員が納得しないとできない事だと思っています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p>			
<p><b>1. その人らしい暮らしの支援</b></p>			
<p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	○	<p>気付かないうちにプライバシーを損ねる対応があるかもしれないので、今後も常に気を付け気を引き締めて対応してゆきたい。</p>
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		
<p>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		<p>その人らしさが出るような身だしなみおしゃれが出来るように助言し、なるべく服はご自分で選んでいただきおしゃれを楽しんでいただいている。又 本人の馴染みの美容院へ行っていただき、毛染め、パーマ、カットが出来るように支援している。美容院さんの送迎付きで利用者様も大変喜ばれている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援  職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金に関しては誰もが関心があり、出かけない限り使う事がない為、買い物外出を作りほしいものを決めて買い物に出るようにしている。支払いは個々に職員見守りにて払っていただくようにしている。		
61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	気の向くまま又は声掛けにて戸外に出かける事は頻繁にあり、それを利用者様が楽しまれている。		
62	○普段行けない場所への外出支援  一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族の理解協力がありご家族と共に外出される方が多い、(日帰り、帰省、食事へ等) 又独居でご家族が見えない方に御彼岸、お盆のお墓参り、家へ服を取りに行く等の支援を行なっている。		
63	○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	耳も遠くなり、又電話での対応は混乱を招く事が多く自ら電話されたりする事は殆どないが、贈り物が届いた時などのお礼の電話を掛けていただくように支援はしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援  家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも気軽に訪問していただけるように声掛け又親しみやすいグループホームの雰囲気作りを努めている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践  運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修、勉強会において何が身体拘束に当たるか常に話し合い把握し全職員が身体拘束のないケアを行なっている。		


岐阜県 グループホーム明星

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		
69	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		
70	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	○	職員の夜間の非常招集を行っていない為やる必要があると思っている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者様が自分らしく暮らしていただけるよう支援し、それに伴うリスクについては家族との話し合いが出来ている。		
<b>(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタル、問診、行動を細かくチェックして異変の早期発見に努めている。又 介護経験豊かな職員が多く利用者様の少しの変化にも気付きの確な対応が出来病気の悪化防止につながっている。	○	今後高齢化、又認知症が進むと自分で体調を申告できない為ちょっとした事でも安易に見逃さない観察力を身につけたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方される薬に付いてよく把握し、確認する事を徹底している。症状を把握することにより過度の薬の服用をなくし良い支援につながっている。常に情報は正しく伝達できる体制を整えている。報連相ノート、申送り、カルテ、介護日誌により職員が情報を把握するようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表により把握し便秘が解消されている。食事の工夫、運動、水分調整、外出等により自然排便が出来ている。下剤使用者は一人もいない。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の口腔ケア、外出後のうがい、手洗いを徹底し清潔に努めている。又異変を感じたらすぐ歯科受診を行なえるように支援している。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリー計算により一日の摂取量が把握できている。水分補給も十分に出来ており、むせやすい人にむせないように、副食を噛みにくい方には刻みにするなど十分にバランスよく摂取していただけるように支援している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	取り決めが出来ている。又感染症に付いての勉強会に参加し対応の把握が出来ている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	衛生管理職員を取決め常に調理道具、消毒、食品管理等衛生管理を行なっている。野菜は自家栽培で安全、新鮮な物を毎日提供しご家族、利用者様にも喜ばれている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関を出すぐに道路に出られないので車には安心。ゆるい傾斜になっているが、鉢花や植木等でアットホームな感じになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節によって花やソファの敷物を変えるなど季節感を出す工夫をしている。広い窓から緑の木々、桜などの花々、柿の木が見え、鳥のさえずりが聞こえる等季節感を十分感じる事が出来る。又台所は広く使いやすく自由に出入りし調理できるようにしてある。	○	これからもより良く生活できるように、少しずつ工夫してゆきたいと思っている。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングの他に中央リビングがあり会話スペースに最適な場所と言える。見え隠れする良さ、ゆったりと安らぐ場所を自分たちで見つけておられるようである。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>83</p> <p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族によって壁に写真が飾ってあったり、いつも御花が飾られている。又使い慣れた椅子が持ち込まれておりその人らしい部屋になっている。少し散らかっていてもその人にとっては落ちつく場所であるため良いと思っている。</p>		
<p>84</p> <p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝掃除を行う時に全室窓を開け換気を行なっている。温度調節も外気との差を見極めこまめに調節している。</p>		
<p>(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
<p>85</p> <p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>玄関に一部段差はあるものの、必要な所には手すりが十分行き届き、長い廊下での歩行訓練にも役立っている。浴室も家庭風呂と同じではあるが床に大きな滑り止めマットを敷き安全に入浴していただけるように工夫している。</p>		
<p>86</p> <p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>ホーム内で行なっている色々な作業も昨年よりは出来なくなってきたりしている方もいるが、その人その人を把握し一緒に行う仲間を考え、いい雰囲気を保ちながらその人の力を生かす努力をしている。</p>		
<p>87</p> <p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>自然の中で楽しみながら活動できる最適な場所となっている。ベランダから池が望め鯉、鴨、鷺などを見ることが出来、時には餌やりをしながら外の空気を吸いに。又池のほとりの散歩道は夏でも木陰で涼しく外気浴をしながら食事、おやつを食べるなどよく活用している。又昔懐かしい道具で野菜の乾燥物を作る等活用度は高い。</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )



V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

職員各々が利用者様の気持ちを理解し接することにより利用者様との隔たりが無く良いケアができています。利用者様中心の思いやりのあるアットホームなグループホームになっております。自然を生かした取り組みも皆で知恵を生かし工夫しながら出来る喜びを実感しています。地域住民の方々、ご家族の方々との関係もより深まり、これからの交流も楽しみに思っております。